

北本市 kitamoto city

文化庁「指定相当の
埋蔵文化財」リスト
掲載遺跡

シンポジウム

デーノタメ遺跡からみた縄文の食文化

クりにクルミにトチノキ、マメ… 縄文人の食卓に迫る！



デーノタメ遺跡からみた縄文の食文化

シンポジウム

2024年1月20日(土曜日)
北本市文化センターホール
13:00～16:50 (12:00開場)

入場無料
申込不要
お座席は先着順
となります

同時開催！
デーノタメ遺跡スポット展示



写真データ提供可

現在、国指定史跡を目指しているデーノタメ遺跡は、縄文時代中期から後期(約 5,000 年前～3,500 年前)の集落遺跡で、集落の規模が大きく、低地遺跡を伴うことが大きな特色です。このうち低地遺跡では、クルミ塚やトチ塚をはじめ、縄文人が食べていた植物の種や実などが数多く出土しました。

今回のシンポジウムでは、デーノタメ遺跡の調査成果をもとに、縄文の食文化と「食」をテーマとした市民活動の可能性について、市民グループ「デーノタメ縄文の杜プロジェクト」のメンバーとともに考えます。

日時

1月20日(土) 13:00～16:50 ※開場 12:00

会場

北本市文化センターホール

プログラム

【報告1】「デーノタメ遺跡からみた縄文人の植物利用」 磯野 治司(北本市教育委員会)

【講演1】「縄文文化の変遷とデーノタメ遺跡」 阿部 芳郎 (明治大学文学部 教授)

【講演2】「縄文の木の美食を考える」 栗島 義明 (明治大学黒耀石研究センター員)

【パネルディスカッション】縄文の食をテーマにした体験活動の可能性

パネリスト:阿部 芳郎、栗島 義明、デーノタメ縄文の杜プロジェクト

担当者コメント

デーノタメ遺跡の調査を通して豊かな縄文人の暮らしが見えてきました。今回のシンポジウムでは私たちの生活につながる縄文の「食」に迫ります！何を採り、どのように加工したのか、そして、どうしてそれを選んだのか…縄文人の食卓事情を明らかにしたいと思います。

